

令和2・3年度における中核園の取組の成果について

令和2年4月に区内7地域に区立保育園1所ずつを指定した「中核園」においては、保育の質の維持・向上のため、地域の保育施設間の連携や情報共有等の促進を行ってまいりました。この取組の2年間の成果について、報告します。

1. 主な取組の実績

※7地域合計、延べ回数・人数

	令和2年度		令和3年度	
	実施回数	参加人数	実施回数	参加人数
地域懇談会	21回	488名	15回	400名
職員の交流	0回	0名	80回	600名
園児の交流	0回	0名	0回	0名
園庭開放（利用園）	0園	-	30園	-
「中核園だより」	70通	-	79通	-

- ・令和2年度は、「顔の見える関係づくり」をスローガンに様々な取組を計画しましたが、コロナ禍の影響により活動が限定されました。そのため「中核園だより」の発行など、対面にならない形での情報共有の促進を図りました。
- ・令和3年度は、コロナ禍の中でも可能な範囲で交流を開始し、職員の交流を積極的に進めるとともに、園庭開放も他園の園児と交わらない環境下で開始しました。

2. 区内保育施設へのアンケート結果に見る取組の成果

※母数は回答園数

質問項目	令和2年度	令和3年度
保育施設間における連携・情報共有が促進されている	77.6%	88.1%
中核園の取組を保育内容に活用した	38.5%	63.8%
地域懇談会に出席した	79.2%	77.7%
職員の交流に参加した (内：保育に良い影響があった)	-	63.8% (79.1%)
園児の交流に参加したい	-	83.7%
園庭のない保育園で、園庭開放を利用したい	78.3%	-
「中核園だより」の内容が保育の参考になった	90.5%	92.0%

- ・交流を進める中で中核園の取組が各保育施設に浸透し、そこで得られた情報・知識や意見交換の内容が日々の保育に生かされ、区全体の保育の質の向上につながっていることが窺えます。

3. 保育施設から寄せられた意見・感想

中核園全般	<ul style="list-style-type: none">・地域の情報収集の点でとても助かっている。この取組がなかったら、地域性を加味した運営が難しかったと思う。・地域の課題や保育について、自園だけで頭を悩ませるだけでなく、共通の課題として、解決に向けて考えていける環境になったのが良かったと思う。
地域懇談会	<ul style="list-style-type: none">・ヒヤリハットをテーマに話し合い、危険の排除のため行動を制限するばかりではなく、子どもの発達に応じた遊びを見直すことの大切さを持ち帰り、園内研修に生かした。
職員の交流	<ul style="list-style-type: none">・他園の経験年数の豊富な保育士と話し、子どもへの声掛けや製作に関して得られたことを、実際に自園で試している。
中核園だより	<ul style="list-style-type: none">・各保育施設の紹介では、テーマごとにそれぞれが持つ考え方や、大切にしていることを知ることができた。

4. 令和4年度における課題(重点取組事項)

(1) 職員の交流

令和3年度における各地域・各園の成果を共有し、アンケートに見られた肯定的な意見・期待する意見も踏まえ、さらに取組を発展させて行きます。

(2) 園児の交流

期待を寄せる声が大きいいことから、コロナ禍の状況を注視しながら、可能な範囲で取組を開始して行きます。

(3) 園庭開放

令和3年度において一定の実績がありましたが、引き続き重点的な取組項目に位置付け、園児の交流と効果的に組み合わせながら、さらに取組を発展させて行きます。

5. アンケート結果の詳細

別紙参照

中核園の取組に関するアンケート結果（考察）

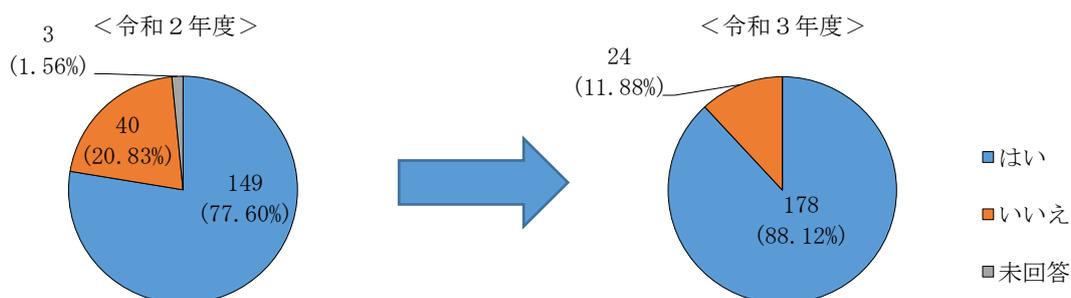
1 概要

- 調査内容：令和3年度の中核園の取組に関する参加状況及び意見等
- 調査期間：令和4年1月21日から同2月9日まで
- 調査対象：266所
- 回答状況：202所（回答率：75.94%）

2 中核園の取組全般について

○中核園の取組により、保育施設間における連携・情報共有が促進していると感じている施設が88.12%と大きな割合を占めています。また、昨年度比+10.52%となっており、かつ、「職員同士の情報交換や悩みなどを共有できる場があり良かった。」や「研修と一緒に取り組んだりする事で連携が更に具体化された。」等の意見からも取組の順次本格化を進めてきたことによる効果が認められます。

【Q5】中核園の取組により、保育施設間における連携・情報共有が促進していると感じますか。



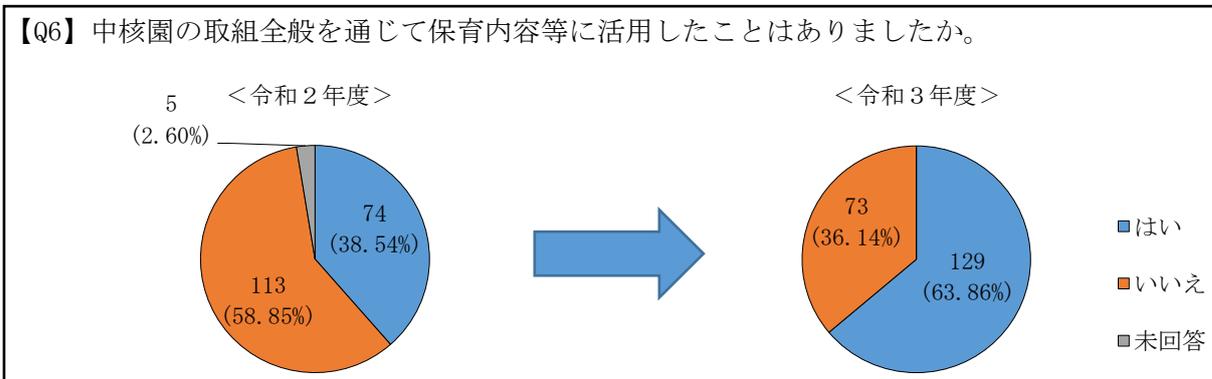
【Q5” はい” の主な理由】

- ・今年度から職員同士の情報交換や悩みなどを共有できる場ができて良かった。
- ・中核園の取組によって地域の情報収集の点でとても助かっている。この取組がなかったら、関係づくりに費やす時間や労力を捻出できず、地域性を加味した運営が難しかったと思う。
- ・地域懇談会を通じての情報共有以外にも、園庭開放を利用できたり、研修と一緒に取り組んだりする事で連携が更に具体化されたと思う。
- ・保育士や看護師の交流、中核園だより等を通じて、昨年度よりも共有範囲が広がったと感じる。
- ・取組を重ねて、浸透してきていると感じる。

【Q5” いいえ” の主な理由】

- ・コロナ禍で交流の機会が少なかったため、連携の促進にまでは至っていないと感じる。
- ・コロナ禍において連携の難しさを感じている。その中でも試行錯誤しながら取組を進めてもらっていることに感謝する。
- ・保育施設の形態が様々ある中で参考にできる情報ばかりではない。自園も情報を生かすだけの余裕がない。

○また、中核園の取組全般を通じて保育内容等に”活用したことがある”と回答した保育施設の割合は、63.86%と昨年度から大幅に増加しています。このことから、中核園が地域の実情に即した取組として充実してきたことが確認できます。



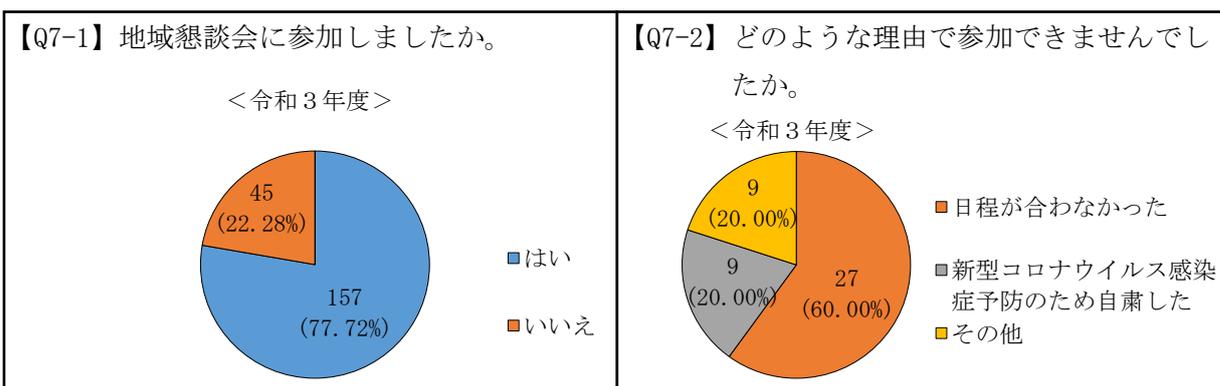
【Q6” はい” の主な活用内容】

- ・研修で学んできたことや各職種（看護師、栄養士など）の交流を通して得た情報を自園に取り入れた。
- ・他の保育施設から得た情報を職員間で共有する中で、どのようにすることで取り入れられるか、自園なりの方法を考えるきっかけとなっている。
- ・手作り玩具等を参考にすることや室内の環境設定の工夫を取り入れること、研修で学んだ内容を職員間で共有し、保育で活かすことができている。また、保護者会や個人面談等の進め方についても、各園が配慮している点を参考にした。

3 地域懇談会について

○地域懇談会については、77.72%と昨年度に引き続き多くの保育施設が参加しています。また、地域懇談会での意見交換は、「中核園研修」や「職員の交流」の企画・立案にも生かされています。

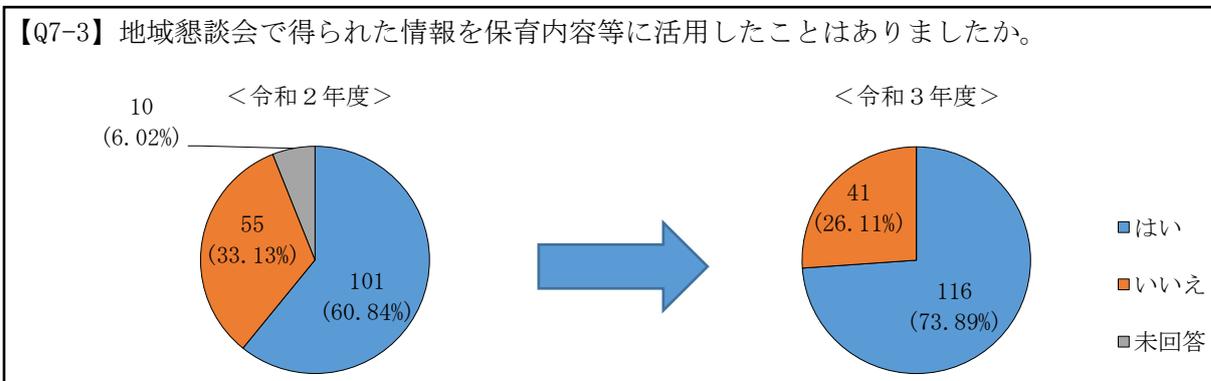
○一方、参加できなかった理由については“日程が合わなかった”が60.00%と最も大きな割合を占めています。このことから、地域懇談会の開催日程の調整・周知の仕組みに課題が生じています。



【Q7-2” その他” の主な理由】

- ・新型コロナウイルス感染症の流行により中止となったため。
- ・職員の休みが重なったため。
- ・保育士の体制上、参加できる状況にないため。

○地域懇談会で得られた情報を保育内容等に”活用したことがある”と回答した保育施設が73.89%と大きな割合を占めています。また、昨年度比+13.05%と増加幅も大きいことから、地域懇談会が各保育施設の課題を共有し、解決に向けて活発に意見交換をする場として、より一層有効に機能してきたことが確認できます。

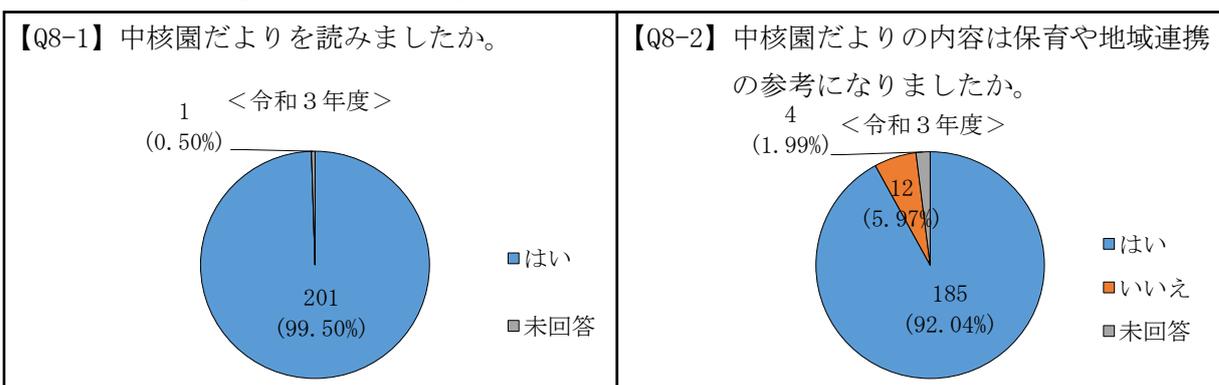


【Q7-3” はい” の主な活用内容】

- ・ 保護者会を実施できない場合の保護者同士の交流の持ち方を参考にした。
- ・ 環境的に余裕がない施設において、積み木やカプラなど大きな玩具で遊んだ際の続きをどのような工夫で提供できるのか、アイデアをもらった。
- ・ ヒヤリハットをテーマに話し合い、危険の排除ではなく子どもの発達を改めて見直すことの大切さを自園に持ち帰り、園内研修に活かした。

4 中核園だよりについて

○中核園だよりは、引き続き92.04%と多くの保育施設に保育や地域連携の参考とされています。また、中核園からの情報発信に留まらず、各保育施設に寄稿してもらうなど、コミュニケーションツールとしての機能も果たしています。



【Q8-2” はい” の主な理由】

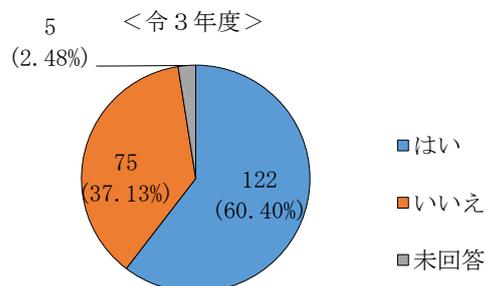
- ・ わらべうたやふれあいあそび、手作り玩具を日々の保育に取り入れた。
- ・ 各保育施設の紹介では、その特色だけでなく、テーマ毎にそれぞれが持つ考え方や、大切にしている事を知ることができた。
- ・ 交流会や研修に参加ができないことが多かったため、中核園だよりを参考に保育活動を考えて。

【Q8-2” いいえ” の主な理由】

- ・連携の参考にはなっていないが、他の保育施設の保育の知る点では役立った。
- ・日常の保育を共有することはできたが、それ程参考とはならなかった。
- ・情報はあっても連携のヒントまでには至っていない。

○今後取り上げてほしい企画や情報等に関して、60.40%と半数を超える保育施設から意見が寄せられており、その内容も多岐に渡っています。これらのことから、各保育施設において、他施設との情報共有のニーズは多く、コロナ禍において情報発信を中心に取り組んできた意義が認められます。

【Q8-4】 今後中核園だよりで取り上げてほしい企画や情報等がありますか。



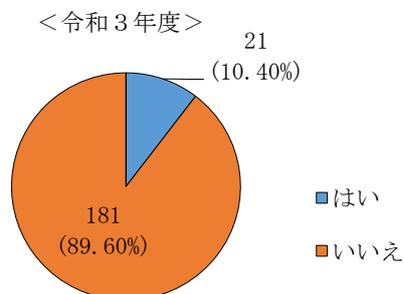
【Q8-4” はい” の主な取り上げてほしい企画や情報等】

- ・公園でのマナーや遊具の使い方、注意することについて
- ・各保育施設の保育活動の様子やおすすめの遊びについて
- ・保育環境や玩具、雨の日の過ごし方について

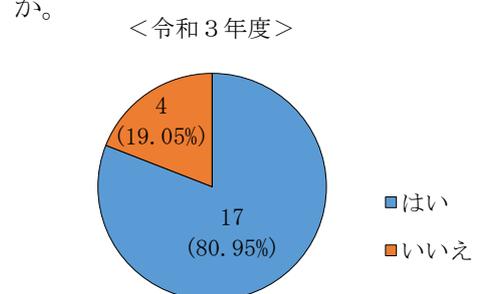
5 相談窓口（保育サポートライン）について

○中核園の相談窓口については、昨年度と同様に10.40%と利用実態は少ないですが、利用した保育施設においては、相談窓口を保育に”有効活用できた”との回答が80.95%と大きな割合を占めています。このことから、中核園の相談窓口について、一定の効果を確認することができます。今後とも保育施設からの相談に的確に対応できるよう、着実に実績を積み重ねていく必要があります。

【Q9-1】 中核園の相談窓口を利用しましたか。



【Q9-3】 相談窓口を保育に有効活用できましたか。



【Q9-3” はい” の主な理由】

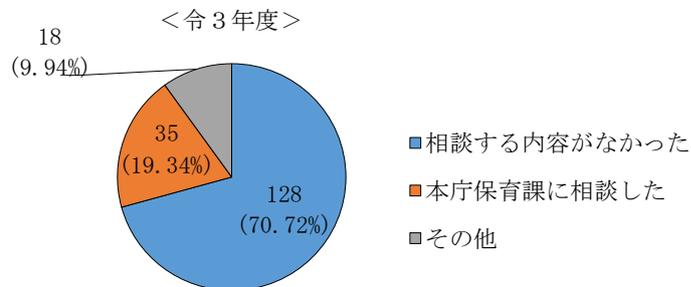
- ・保育施設で働く誰もが利用できるということで、大変ありがたく、何度も利用した。
- ・区立保育園の保育方法を参考にして行事の実施方法を判断した。
- ・参考意見が聞けることで安心につながった。また、検討し直すことで自身の学びにもなった。

【Q9-3” いいえ” の主な理由】

- ・相談内容が保育に関することではなかった。

○なお、利用していない理由の内、“相談する内容がなかった”が70.72%と大部分を占めています。

【Q9-4】どのような理由で利用しませんでしたか。



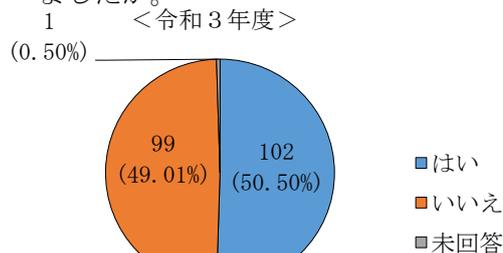
【Q9-4” その他” の主な理由】

- ・本社や系列の保育施設に確認をしている。
- ・懇談会で解決に至るものが多かったため利用していない。困った際には利用しようと考えている。
- ・巡回訪問の際に相談しており、中核園の相談窓口を利用することがなかった。

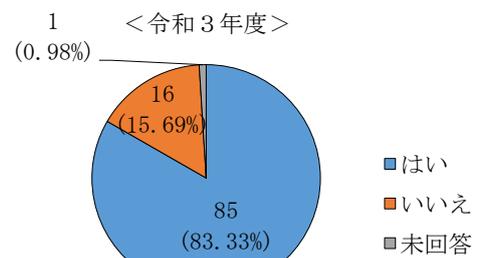
6 中核園研修について

○地域懇談会等で各保育施設から寄せられた意見・要望を参考として、各中核園が研修テーマを設定し、各地域1回程度実施しました。このように限られた実施回数ではありましたが、中核園が企画・実施した研修に”参加した”と回答した保育施設が50.50%と半数を占めています。また、参加した保育施設の83.33%と大部分は、研修内容を保育に”有効活用できた”と回答しています。このことから、保育の質の向上に有効な取組であることが確認できます。

【Q10-1】中核園が企画・実施した研修に参加しましたか。



【Q10-2】研修内容を有効に活用できましたか。



【Q10-2” はい” の主な理由】

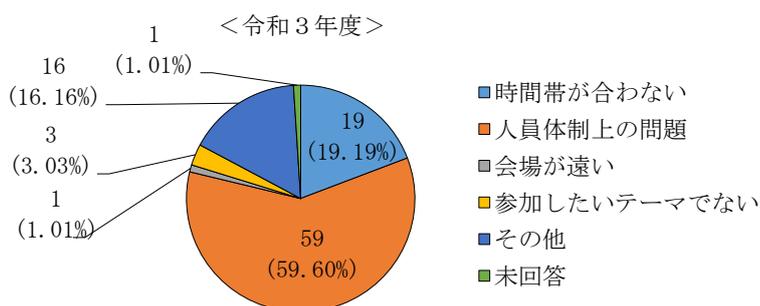
- ・新人職員が絵本の読み聞かせの研修に参加した。研修の内容は然り、自園以外の保育士と交流する良い機会にもなり、地域の連携強化にもつながると思う。機会があればまた参加してもらいたい。
- ・廃材を使った遊びをすることで子どもの発想が広がった。
- ・自分のからだを大切にすることについて、どのように子どもに伝えていくかを模索している中で、これに合うテーマの研修があり、参考にした。

【Q10-2” いいえ” の主な理由】

- ・参考になる部分はあったが、有効活用できる程落とし込めていない。
- ・研修に参加した職員からは、とても勉強になったと報告を受けているが、園内での活用には至っていない。
- ・共有する時間を設けられず、有効に活用することができていない。

○研修に参加できなかった理由として、最も多い回答は” 人員体制上の問題” で59.60%を占めています。また、研修参加へのニーズが多いことから、各保育施設の職員が研修に参加し易い仕組みを模索していく必要があります。

【Q10-3】 どのような理由で利用しませんでしたか。



【Q10-3” その他” の主な理由】

- ・参加予定の職員が体調不良となり、参加を見送った。
- ・参加を希望した職員はいたが、新型コロナウイルスの感染拡大のため、参加しなかった。
- ・感染症対策のため集合型研修への参加を極力控えている。

【Q10-4】 今後どのようなテーマの研修に参加したいですか（複数回答可）。

＜令和3年度＞

選択肢	保育内容や保育環境	人材育成	危機管理	その他
回答数	168	124	118	19
割合	83.17%	61.39%	58.42%	9.41%

【Q10-4” その他” の主な希望するテーマ】

- ・「散歩に出かける意味・ねらいと活動の計画の仕方」等の具体的な取組について
- ・食育について
- ・子どもを見る大切な視点について

7 園庭開放について

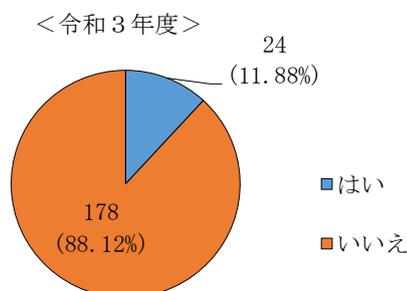
○認可基準を満たす園庭を有している保育施設は、全体のおおよそ30%の割合となっており、昨年度実施したアンケートにおいて、園庭開放に高い期待が寄せられていました。また、その高い期待には、園庭開放と合わせて実施する園児の交流を望む声が含まれていました。

○しかしながら、今年度はコロナ禍の影響により、園庭開放の実施を断念した地域・保育施設が大半であったほか、実施した地域においても園児が交わらないよう制限した中での取組となりました。このような状況から、園庭開放を” 利用した” と回答した保育施設は11.88%となっています。

○こうした中でも、園庭開放を実施した高円寺地域の高円寺北子供園の園庭（旧杉並第四小学校校庭）や高井戸地域のちゅうりっぷ広場（杉並の家ちゅうりっぷ保育園の第2園庭）のほか、10園の区立保育園においては、全体で30所*の利用がありました。

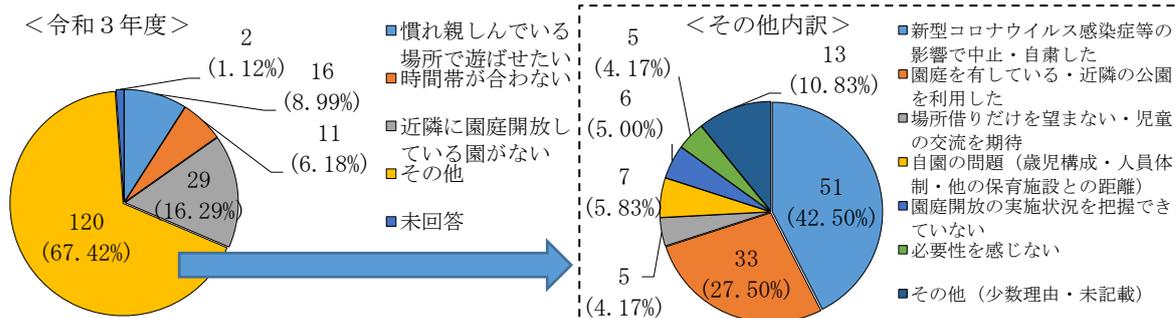
※実際に各園庭を利用した保育施設の合計となります。そのため、アンケート結果とは異なる数値となります。

【Q11-1】 自園以外で園庭開放を利用しましたか。



○利用しなかった理由として、“新型コロナウイルス感染症等の影響で中止・自粛”が最も多い回答となっており、コロナ禍の影響が窺えます。コロナ禍が収束した際には、園児の交流と合わせた園庭開放が進むことが見込まれます。

【Q11-2】 どのような理由で利用しませんでしたか。



【Q11-2”その他”の主な理由】

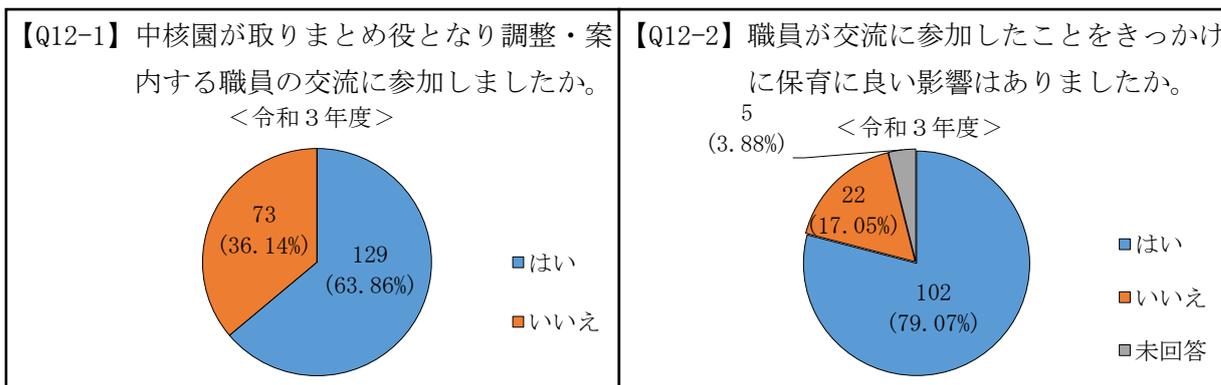
- ・ 3歳以上児の子どもの遊びを一緒に経験させたいと思うが、場所だけを借りるには申し訳ない人数であり、そのために、その保育施設の子どもが園庭で遊べないのは好ましいと思えない。
- ・ 地区に複数の公園があり、他の保育施設の園庭を使う必要がなかった。また、コロナ禍で子どもを他の保育施設へ連れて行くことはできない。
- ・ 乳児を遠距離にある保育施設まで連れていくことはできない。

8 職員の交流について

○職員の交流については、今年度の重点取組に位置付けたところですが、20回以上実施した地域がある一方で、コロナ禍の影響から実施回数を1桁に控えた地域があり、各地域で取組に差が生じています。

○こうした実施状況ではありますが、職員の交流に”参加した”と回答した保育施設が63.86%を占めています。また、職員が交流に参加したことをきっかけに保育に”良い影響があった”と回答した保育施設が79.07%と大きな割合を占めていることから、研修と同様に保育の質の向上を図るための有効な取組であることが確認できます。

○このような結果を踏まえ、各地域の取組を共有し、全ての地域で一定回数以上の交流を実施するなど、取組を促進していく必要があります。



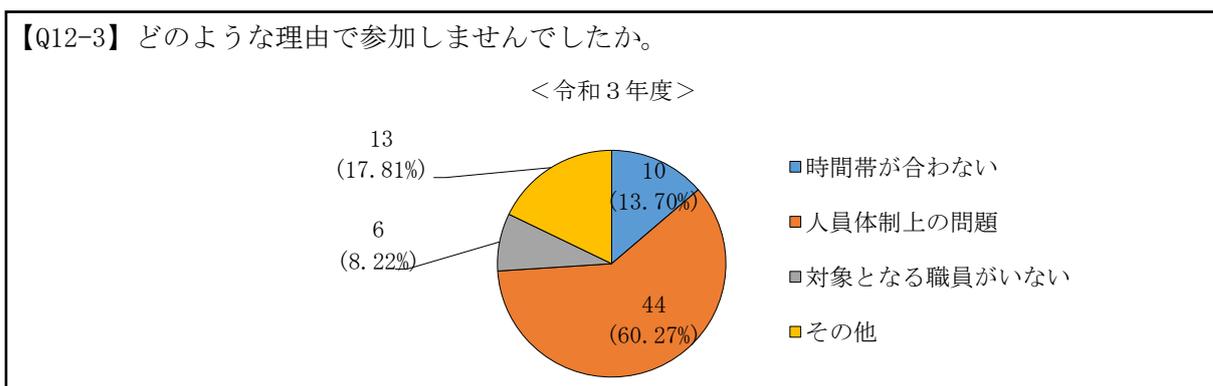
【Q12-2” はい” の主な理由】

- ・同じ立場の職員を対象としていたため、共通する課題があり、他の保育施設の事例が参考となっている。
- ・交流に参加したことが刺激となり、職員自身のやる気につながっている。
- ・経験年数の豊富な保育士と話し、子どもへの声掛けや製作に関して得られたことを実際に試している。

【Q12-2” いいえ” の主な理由】

- ・同じ悩みを持っていることを共感できて良かったと思うが、もう少し時間があれば良かった。
- ・1回目の交流であったため、まずは顔合わせ、情報交換といった趣だった。今後、取り組みを深めていくように感じる。
- ・本人の学びとなったと思うが、共有されていない。

○一方で、研修と同様に職員の交流に参加できなかった理由として、最も多い回答は” 人員体制上の問題” で、60.27%と大きな割合を占めています。こちらについても、各保育施設の職員が交流に参加し易くなる仕組みを模索していく必要があります。



【Q12-3” その他” の主な理由】

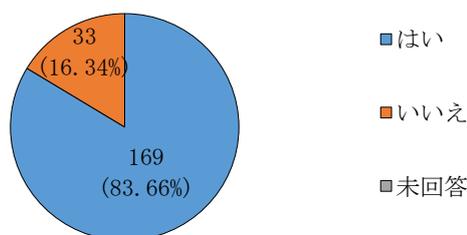
- ・参加する予定だったが、新型コロナウイルスの感染防止のために自粛した。
- ・参加申込みをしていたが、コロナ禍で中止となった。

9 園児の交流について（コロナ禍が収束した前提）

○園児の交流に”参加したい”と回答した保育施設が83.66%と大きな割合を占めており、多くのニーズがあることを確認できます。また、同年齢による交流が求められている一方で、異年齢の交流のニーズは、全体の1/5程度とそれほど多くないことも確認できます。

【Q13-1】中核園が取りまとめ役となり調整・案内する園児の交流に参加したいですか。

<令3年度>



【Q13-2】どのような交流に参加したいですか（複数回答可）。

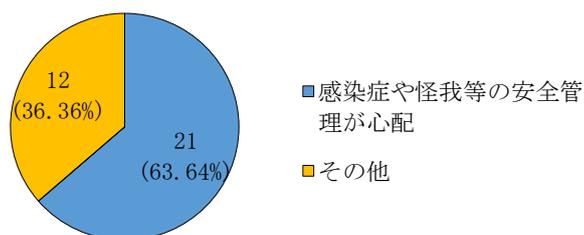
<令和3年度>

選択肢	同年齢		異年齢	
	園内活動	戸外活動	園内活動	戸外活動
回答数	125	154	27	34
割合	73.96%	91.12%	15.98%	20.12%

○「感染症や怪我等の安全管理が心配」や「低年齢児の交流は難しい」との回答もあるため、園児の交流の実施に向けては、これらの意見も踏まえながら、安心・安全に実施するための対策を検討していく必要があります。

【Q13-3】どのような理由で参加したくないですか。

<令和3年度>



【Q13-3”その他”の主な理由】

- ・ 1・2歳児のみの保育施設なので、散歩先の公園で交流するくらいが丁度良い。
- ・ 既に近隣の保育施設との連携が取れている。
- ・ 0～2歳児の計5名が全員参加できる交流となると考えてしまう。

10 その他

○その他に以下の意見等も寄せられています。

- ・コロナ禍で思うように活動ができなかったため、可能であれば、今後は子どもの交流を進めていけたらよいと思う。思うように取り組めない状況の中でも、保育士同士の交流を行うことができたのは、良い刺激になったと感じている。
- ・中核園の取組が始まり、系列園以外の地域の様々な保育施設と関わる事で、今までは「他の保育施設」という認識だったのが、地域で一緒に保育をしている施設として身近に感じるようになった。地域の課題や保育について、自園だけで頭を悩ませるだけではなく、共通の課題として、解決に向けて考えていける環境になったのが良かったと思う。
- ・なかなか計画通りに進めることが難しい状況にあると思うが、少しずつ中核園の存在や取組が浸透していき、それぞれに取り組んできたことが、地域ごとに中核園を中心に形となり、地域の連携が深まることを期待する。
- ・忙しい中、中核園だよりや懇談会、研修などの案内をもらい大変ありがたいと思う。自園は開園3年目でこれから地域の保育施設と交流を持ちたい、知りたいと思っていた矢先に、コロナ禍で思うような交流が持てなかった。保育業界全体の問題である質の向上や保育士確保という面からも、地域の中核園の取組はとても役に立つ仕組みだと思う。

～アンケート結果から窺える課題と令和4年度における実施方針～

- 2年目となる中核園の取組においては、「地域懇談会」の開催や「中核園だより」の発行を引き続き行うとともに、「園庭開放」や「職員の交流」を重点的な取組項目として位置付けし、新たに実施してきました。園庭開放等の新たな取組については、コロナ禍の影響により制限を受けた部分もありましたが、一定の実績を上げ、多くの肯定的な意見をいただきました。一方で、最も多くのニーズがある「園児の交流」については、コロナ禍の影響から未だ実施できておりません。
- 「職員の交流」は、各保育施設の保育において成果が生かされている様子が窺えます。しかしながら、取組回数に関しては、20回以上実施した地域がある一方で、実施回数が1桁に留まった地域もあり、各地域の取組に差が生じている現状が明らかとなりました。
- 「園庭開放」に関しては、コロナ禍の影響により実施を断念した地域が多くあったほか、実施した地域においても園児が交わらないようにするなど、制限された中で取り組みました。また、園庭の共同利用だけでなく、「園児の交流」と組み合わせることで、利用の促進と保育内容の充実の両方に期待できるという意見が聞かれます。

令和4年度に重点的に実施する中核園の取組

<職員の交流>

令和3年度における各地域・各園の成果を共有し、アンケートに見られた肯定的な意見・期待する意見も踏まえ、さらなる取組の展開を図るとともに、各地域において一定以上の回数を実施して、取組の差を解消していきます。また、私立保育所も含む各保育施設の園内研修に関する情報収集・情報発信を中核園が行い、園内研修の相互参加も促進していきます。

<園児の交流>

期待を寄せる声の大きいことから、コロナ禍の状況を注視しながら、可能な範囲で取組を開始していきます。

<園庭開放>

引き続き重点的な取組項目に位置付け、園児の交流と効果的に組み合わせながら、さらに取組を発展させていきます。

中核園の取組に関するアンケートにご協力頂きありがとうございました。

アンケートで頂いたご意見を参考にし、令和4年度も中核園では様々な取組を計画していきます。

各保育施設の皆様の引き続きのご参加のもと、ともに保育を学び地域連携を深め、自園並びに杉並の保育の質の向上に取り組んでいきたいと思います。